

週間火山概況（平成 24 年 3 月 9 日～ 3 月 15 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

桜島では、12日に火口周辺警報を切り替え、大きな噴石及び火砕流に対する警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から 2 kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大した（噴火警戒レベル3（入山規制）は継続）。

その他の火山は、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（3月9日～3月15日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
3月12日15時35分	桜島	火口周辺警報	火口周辺警報切り替え （噴火警戒レベル3（入山規制）継続）
毎日07時、17時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 3月15日現在の噴火警報・噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（3月15日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

みやけじま

三宅島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

噴煙高度は、火口縁上100～300mで経過した。

火山性地震は少ない状態で経過した。

15日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり900トン（前回2月10日、900トン）とやや多い状態であった。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性がある予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

海上自衛隊からの通報によると、7日（期間外）にごく小規模な水蒸気爆発が発生した島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）では、10日12時30分頃に高さ10m程度の噴気が上がっているのが確認された。7日（期間外）から9日にかけて海上自衛隊の協力により実施した現地調査及び上空からの観測では、上記旧噴火口以外の島内の噴気、地熱等の状況に前回（2011年11月16日から18日）の観測と比べて大きな変化は認められなかった。

地震活動は、2011年2月末頃から比較的活発な状態が続いている。今期間、火山性地震はやや少ない状態で経過した。

国土地理院のGPS観測結果では、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2011年1月末頃から隆起速度が増加していたが、同年12月下旬頃からやや鈍化している。また、島の南部で大きな南向きの変動がみられる。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくあかのば

福徳岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

7日（期間外）に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測、及び9日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる黄緑色、濃乳白色及び薄青色の変色水が、湧出点付近から長さ200m程度にわたって確認された。これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測でも、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

きりしまやま

しんもろだけ

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

新燃岳では、噴火は発生しなかった。

火山性地震はやや多い状態が続いている。火山性微動は観測されなかった。

傾斜計¹⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められなかった。

13日に宮崎県の協力を得て実施した上空からの調査では、前回（7日）と比較して、火口内に蓄積された溶岩の大きさ（直径約600m）や形状、周辺の噴気の状況及び地表面温度分布に変化がないことを確認した。白色の噴煙が、主に溶岩の北側及び東側から火口縁上50～100m上がっており、引き続き、一部には二酸化硫黄を含む青白色のガスを確認した。また、西側斜面の割れ目の一部では、前回の調査と同様にやや温度の高い部分²⁾が認められた。

国土地理院のGPS観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月頃から鈍化し、その後停滞している。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）に注意が必要である。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）が新燃岳火口から10kmを超えて降っている。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に警戒が必要である。

さくらじま

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）] ←12日に火口周辺警報の切り替え（噴火警戒レベル3（入山規制）継続）

昭和火口では、12日15時07分に爆発的噴火が発生し、大きな噴石³⁾が2合目（昭和火口から南東へ約2.4km付近）まで達した。桜島の噴火活動は活発化していることから、同日15時35分に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切り替え、大きな噴石及び火砕流に対する警戒範囲を昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）に拡大した。

昭和火口では、爆発的噴火が26回発生した。また、同火口では夜間に高感度カメラ⁵⁾で明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、12日及び13日にごく小規模な噴火が発生した（南岳山頂火口でのごく小規模な噴火の発生は2012年2月13日以来）。

14日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり2,400トン（前回2月23日、2,900トン）と多い状態であった。

火山性地震は少ない状態で経過し、噴火に伴う火山性微動が時々発生した。

国土地理院のGPS観測結果では、^{あいら}始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられている。

昭和火口及び南岳山頂火口から2kmを超えた居住地域近くの範囲（昭和火口から概ね2.4km）では、大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）に注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

さつまあうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや高い状態が続いている。

火山性地震は少ない状態で経過した。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾に注意が必要である。

すわのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

^{あたけ}御岳火口では今期間噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石³⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び遠方でも小さな噴石³⁾に注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 2) 赤外熱映像装置により観測している。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 5) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

注) データについては精査により、後日修正することがある。

【参考】 噴火警報・噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域厳重警戒	
レベル4（避難準備）		または山麓厳重警戒*	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険	
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険	
レベル1（平常）	噴火予報	平常	

*居住地域が不明確な場合

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。